医療法人　幸生会
琵琶湖中央病院

病院だより

第 18 号
2012/6/15

始めました…

ロボット・セラピー

リハビリ療法部では、今年の４月より、ロボット・セラピーを行っています。ロボット・セラピーとは、ロボットを用いた治療のことです。本物に近い動物的な反応を示すロボットと触れ合うことで、アニマル・セラピーと同様の効果が得られることが明らかとなっており、特に癒し・楽しいと気持ちがストレスを軽減させ、精神的な好作用が期待されます。そこで、当院では動物型ロボット「パロ」を導入しました。

「パロ」とは、アザラシの赤ちゃんをモデルにしたロボットであり、世界一癒されるロボットとしてギネスブックに登録されています。「パロ」はより本物のアザラシに近い形に作りこまれており、毛皮は抗菌性の化学繊維からなるフェイクファーで、起毛の長い毛布に近い柔らかなものとなっており、気持ちの良い触り心地です。鳴き声は本物のアザラシの赤ちゃんの鳴き声を取り入れ、また大きさは小型犬より多少大きいくらいで、その重さは人間の生まれたての赤ちゃんと大体同じくらいの重さの 2.7kg と重過ぎることのない安定感のあるものとなっています。「パロ」の内部には様々なセンサーや人工知能が組み込まれており、約 50 語の単語を識別することができ、個別の名前を憶え、名前を呼ばれると声のほうに顔を向けて返事をしたり、なでたり抱きかかえると喜んだりするなど、こちらからの関わりに合わせて豊かな感情表現や動物らしい行動を示して「パロ」が応えてくれます。

現在、日本ではデイサービスセンターや介護老人保健施設・特別養護老人ホームなど、高齢者の方々に対して利用されています。一方、世界では研究文献も多く、医療機関などにおいて治療ロボットとして幅広く活躍しています。特にアメリカでは医療機器として承認されていることもあり、多くの医療施設や介護福祉施設での利用、また小児病棟・児童養護施設などで自閉症の子どもたちに対しても活用されています。

当院で「パロ」を導入した目的は、患者様に癒しや楽しむという気持ちを持って頂き、「自分は病気で何もできない」などのネガティブな思考から抜け出し、よりよいリハビリ・病院生活を送って頂くためです。実際に、寝たきりの患者様や、自分から動こうとしない患者様と「パロ」が関わった結果、「パロ」に会うために自分から動くことが増えました。また、精神的にも元気を取り戻し、ベッドで寝ている時間が減り、リハビリ室に来る頻度が増えるなど活動量が増えた方もおられます。多くの患者様が「パロ」に自分から声をかけ、笑顔で関わっていました。

今後も、患者様や病院スタッフと「パロ」との関わりを増やし、笑顔が増える病院作りを進めていこうと考えています。

第７回琵琶中央病院
『いきいき健康教室』

６月９日(土)当院５階多目的ホールにおいて「いきいき健康教室」を開催しました。雨天にもかかわらず約７０名の地域の方々が参加。

今回は、ボランティアグループ「湖風会」による箏と尺八演奏。みなさんが知っている“日本のわらべ歌”に思わず口ずさむ方など、美しい音色に聴き入っていました。当院の医師・看護師・管理栄養士のお話のあとは、身体に優しいおやつの試食もあり、楽しいひとときとなりました。